

提出日： 2026 年 4 月 25 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
経済	准教授	杜崎 群傑

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。	
	1. 2025年4月 1日 ～ 2026年3月31日	1
	2. 2025年9月 1日 ～ 2026年8月31日	
	3. 2025年4月 1日 ～ 2025年9月20日	
	4. 2025年9月21日 ～ 2026年3月31日	
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。	
	本研究は、1950 年代の中国における立法権に着目し、当時の中国における三権分立と党の関係、これによって導き出される政治体制と、議会制度の運用実態を明らかにすることを目的としていた。そこで2025 年度は中国近現代史に関連する資料を多数保存している、UCLA の East Asian Library に1 年間ほぼ毎週通うことにより資料調査を行ってきた。ここでは主に当該図書館が保有する『中共重要歴史文献資料彙編』という膨大な資料群を収集・整理・解析してきた。その中には立法府に関わるもののみならず、地方政府や中国の自由主義・民主主義に関する資料も含まれる。	
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。	
	以上の資料群は調査・収集・整理したこと、それを公表すること自体が資料学の観点から言っても学術的重要な成果となる。というのも、本資料群は中国近現代や中国共産党について多数の未公刊資料が含まれており、近年中国研究学界において注目されている資料であるにも関わらず、その全貌については従来明らかにされることはなかったからである。そこで、この『中共重要歴史文献資料彙編』自体を分析対象にして検討を加えた共著論文が1 本と、さらにこの資料群の有用性と限界を明らかにした単著論文が2 本、近刊予定である。	
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。	
	以上の成果を踏まえ、今後は大きく分けて2 つのプロジェクトを進めていく予定である。まずは上記の資料群を引き続き調査しつつ、この資料についてのさらなる分析である。上記の通りすでに関連した論文が3 本近刊であるが、他方でこの資料群自体が膨大であるため、この3 本の論文をもってしても、その全貌を完全に明らかにすることはできていない。そこで今後は引き続き申請者の研究に関連する項目について随時、分析を加えて資料紹介していく予定である。2 つ目がここで得られた資料を駆使しつつ、申請者の専門領域である中国共産党の議会制度や、中国国内における隠された自由・民主の思想史について研究するということである。	